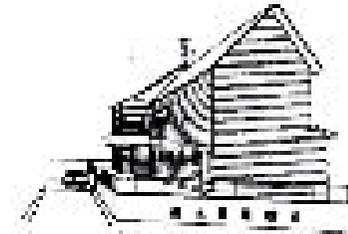


< 夕礼拝の聖書から >

ルカによる福音書 2:41～52 が開かれます。この箇所は“自己証言”であり、メシアとしての就任を現している箇所の最初といえます。申命記 16:16 には“あなたのうちの男子は皆あなたの神、主が選ばれる場所で、年に三度、すなわち種入れぬパンの祭と、七週の祭と、仮庵の祭に、主の前に出なければならない。ただし、から手で主の前には出なければならない”とあります。イエス様が、この場所を選ばれたのも、おそらくこの為だと思われます。イエス様の時代には、この三度というのも、“最低一度”に変えられ、女性の同伴も勧められるようになりました。イスラエルの教えでは、13歳になった時から、律法に厳格な生活をするのが求められ、その準備としての教育が、父親に求められていました。12歳になった時に、来年から始まる生活の“予行演習”として、一番大事な巡礼の時期、“過ぎ越しの祭り”の時の出来事がここには描かれています。42節に“イエスが十二歳になった時も、慣例に従って祭のために上京した”とあるのはこのことを示しています。神殿は、後に律法学者たちとの討論の場所ともなり、弟子たちにも教えられた、福音にとって重要な場所にもなっています。ヨセフとマリアの生き方を知ることができます。けれどもルカが描き出している重要な記録は、“知恵”と母に対する“宣言”にあります。47節の“イエスの賢さやその答に驚嘆していた”とあるのは、その秀才的な賢さというよりは、神が臨在しておられるところに現れる“知恵”を現しています。ルカは、----ヨハネが“言葉”ということを大切にしたように知恵という言葉をとっても大切にしています(7:35、11:39 その他)。母マリアが“お父様(あなたの父)”といった時に(2:48)はつきりと“神の子”としての証言へと続きます。聖書は語りませんが、もう一度マリアは“受胎告知”の出来事を思い出したに違いありません。しかし現実的には 2:50 節で“しかし、両親はその語られた言葉を悟ることができなかった”とされているように、解釈して筋道を追って分かることはできませんでした。“どうしてお捜しになったのですか。わたしが自分の父の家にいるはずのことを、ご存じなかったのですか”と語られた方(2:49)が、愛してやまない父と母に仕えて“それからイエスは両親と一緒にナザレに下って行き、彼らにお仕えになった。母はこれらの事をみな心に留めていた(51節)”とマタイが伝えていることが更に説明されます。御自身の御子としての宣言と、ナザレの村で大工として働き、人に仕える姿が説明されます。今も私たちに伴い、宮にはいないで、救いの道を成就している方が、私たちの信仰の根拠になっているのです。

週報

2010年 1月 3日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042